

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	新編現代の国語（東京書籍）
副教材	意味から学び意味の力を考える 漢字と語彙ビッグマスター2700（尚文出版編集部）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題 考查	中学校の復習 高校国語入門	・新入生課題から出題	○	○	○
	期末 考查	1 自己を見つめる 2 他者に出会う 3 言葉と生活 1	- 筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 - 筆者の少年時代について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。 - 情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 - 二つの関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 - 文化の比較を通じて、自分たちの住む郷土の文化の特質について理解する。【SDG s 11 住み続けられるまちづくりを】 - 目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	○	○	○
	課題 考查	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
2学期	中間 考查	4 視野を広げる	- 身近なものを観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 - 論じられた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 - 話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。	○	○	○
	期末 考查	5 社会と関わる 6 言葉と生活 2	- 筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 - 自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 - 発想を広げてアイデアを整理し、まとめる。	○	○	○
	課題 考查	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○
3学期	学年 末 考 査	7 世界とつながる	- 抽象的なテーマについて論じた文章を読み、その展開を論理的にとらえ、筆者の価値観を理解する。 - 出来事の順序に着目しながら、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	○	○	○
		8 未来に目を向ける				

	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○
--	---	------------------------------	----------------------------------	---	---	---

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・文章の構成と論理の展開をとらえ，学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように，表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて，効果的に話したり，的確に聞き取ったりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受ける際の約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は，事前に教科担任に申し出る。） (2) 正しい姿勢で授業に臨む。 (3) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも，<u>自分なりに考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	現代の国語（大修館書籍）
副教材	意味から学び意味の力を考える 漢字と語彙ビッグマスター2700 （尚文出版編集部）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習，高校国語入門	・新入生課題から出題	○	○	○
	期末考查	明日をひらく 伝える・伝え合う 要点をつかむ 的確に伝える	・情報が的確に伝わるように説明のしかたを工夫する。 ・内容や構成、論理の展開などについて、的確にとらえ、文章の要旨・要点を把握する。 ・自分たちの住む郷土についての情報を収集・整理し、伝え合う内容を検討する。【SDG s 11 住み続けられるまちづくりを】 ・目的や意図に沿うように、自分の文章を整える。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
2学期	中間考查	意見を示す 論理をとらえる	・自分の立場や考えを明確にして話す。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開や構成を工夫する。 ・主張と根拠、推論の仕方に着目して文章の論理をとらえる。	○	○	○
	期末考查	魅力的に伝える 資料を駆使する 他者と交流する	・情報の妥当性・信頼性を吟味し、伝えることを明確にする。 ・情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する。 ・文体や語句などの表現のしかたを工夫する。 ・展開を予想しながら聞き、聞き取ったことを整理して自分の考えを深める。	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題より出題	○	○	○
学 3	課題考查			○	○	○

	学年末 考査	情報を比較する 他者を動かす	・解釈や評価をとおして、自分の考えを深める。 ・資料や機器を効果的に用いて話す。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・文章の構成と論理の展開をとらえ，学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように，表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて，効果的に話したり，的確に聞き取ったりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る) (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	新編言語文化（数研出版）
副教材	「漢字と語彙 ビッグマスター 2700」（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習 高校国語入門	・新入生課題から出題	○	○	○
	期末考查	地域の「ことば」 言語文化と古文 古文に親しもう 言語文化と漢文 日本語の中に生きる漢文 受け継がれる古典 古文の世界を楽しむ	・作品に用いられている言葉の特徴や使い方を知り、自分たちの住む地域の言葉と比較する。 ・表現に注意しながら登場人物の心情を読み取り、小説に親しむ。 ・古文の表現に慣れ、作品に表れた作者の考えを、叙述を基にとらえる。 ・漢文の特色を知り、きまりを理解する。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
2学期	中間考查	詩歌を味わう 現代にも生きる教え 故事と成語	・詩や短歌、俳句に親しみ、深く読み味わう力を養う。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方をとらえて、内容を解釈する。 ・地域に根付く教えについて調べる。 【SDGs 11 住み続けられるまちづくりを】	○	○	○
	期末考查	語感を磨く 昔と変わらない人の心 漢詩を味わう	・描かれている内容から主題を読み取り、小説を深く味わう。 ・文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を読み味わう。 ・漢詩を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○
3学期	学年末考查	「ことば」の力 先人を思う旅 論語のことば	・多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。 ・作品の内容を読み取り、作者の思いをとらえる。 ・話の展開に即して、内容を理解する力を身につける。 ・『論語』の注釈を読んで自分の考えをまとめ、伝え合う。	○	○	○

	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○
--	---	------------------------------	----------------------------------	---	---	---

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・作品に込められた作者の心情や，ものの見方や考え方をとらえ，内容を解釈することができる。 ・作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は，事前に教科担任に申し出る。） (2) 正しい姿勢で授業に臨む。 (3) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも，<u>自分なりに考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示） (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。黒板をしっかりと書き写す。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1 学年
履修単位	3 単位
教科書	精選言語文化（第一学習社）
副教材	「学ぶぞ 古文と漢文」（尚文出版） 「漢字と語彙 ビッグマスター 2700」（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	課題考查	中学校の復習，高校国語入門	・新入生課題から出題	○	○	○
	期末考查	小説（一） 古文入門 歌物語	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもつ。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	○	○	○
	課題考查	2 学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
2 学期	中間考查	詩 漢文入門 故事成語 短歌・俳句	・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情をとらえる。 ・情景にこめられた孤独感など、作品に表れているものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈する。 ・繰り返し音読し、詩のリズムを理解する。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深める。	○	○	○

3 学期	期末 考査	小説（二） 随筆（一） 史伝	- 文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などを的確にとらえる。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 作品に表れているものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈する。 - 主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 - 訓読の決まりを理解する。	○	○	○
	課題 考査	2 学期の復習	冬季課題より出題	○	○	○
	学年 末考査	伝統と文化 日記 漢詩	- 我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 「言語活動」への見通しをもって随筆を読み、自分たちの住む地域の伝統行事についてものの見方を深める。【SDG s 11 住み続けられるまちづくりを】 - 課題に応じて調査する方法を知る。 - 漢詩のきまりを理解する。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・ 1 年間の復習	- 春季課題あり - 新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 - 文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	- 作品に込められた作者の心情や、ものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈することができる。 - 作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	- 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 - 課題等を決められた期日に提出している。 - 読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつけ，正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示） (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモを取る。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典探究	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	精選古典探究（大修館書店）
副教材	古典の手引き（いいずな書店） 核心古文単語351（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習 高校国語入門	・新入生課題から出題する。	○	○	○
	期末考查	古文1 説話	・話の舞台や背景に注目し、登場人物の行動に注意して読み、話の展開を把握する。	○	○	○
		漢文1 故事・逸話	・漢文訓読に習熟し、故事成語の意味の成り立ちを理解し、故事・逸話のおもしろさを味読する。			
		古文2 随筆（一）	・中世的無常観に基づく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。 ・仏教的無常観に基づく、作者の思想を理解する。			
2学期	課題考查	漢文2 漢詩 漢文6 日本の漢詩	・近体詩の形式や表現、詩人の自然観について理解する。 ・日本漢詩を理解する。 ・徳之島の情景の美しさを表現できる語句や漢文特有の表現を調べたり、自分で表現を創ったりする。 SDGs 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう	○	○	○
		2学期の復習	・夏季課題から出題する。			
	中間考查	古文3 物語（一）	・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係、表現技巧を理解し、 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。	○	○	○
		漢文3 史伝	・漢文の読解に慣れ、歴史物語のおもしろさを味わい、人物像をとおして、人間の生き方について考える。			
		古文4 随筆（二）	・清少納言の感性和機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わう。			
	期末考查	古文5 物語（二）	・人物描写を味わい、作品をとりまく時代背景、文化的環境について理解する。	○	○	○
		漢文4 文章 古文6 日記	・作品に表れる作者の社会観、自然観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。 ・作品のもつ虚構性や和歌の修辞を理解する。 ・表現を読み味わい、作者の心情を理解する。			

3学期	課題 考査	2学期の復習	・冬季課題から出題する。	○	○	○
	学年 末 考査	古文7 物語（三）	・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について作者がどのように思っているかを考える。 ・音便の多用、漢詩文の引用などの軍記物語の優れた情景描写の表現を味わう。			
		漢文5 思想	・儒家、道家、法家の思想を理解する。 ・繰り返し音読し、それぞれの思想を深く読み取り、自己の考え方を豊かにする。	○	○	○
		古文8 和歌・歌謡・歌論	・和歌の発想や表現、韻律、修辞法など、独特の表現方法を理解する。 ・日本三大歌集のそれぞれの歌風の特徴をつかむ。			
		漢文7 小説	・物語の筋の展開を性格に把握し、表現や構成の巧みさを鑑賞できる力を身に付ける。			
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もある。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・「読むこと」において、古典特有の表現に注意して内容、構成、展開などを的確にとらえている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査	・古典作品に興味をもち、古典文学と現代の作品とのつながりや、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 ・作品の描かれた背景を踏まえて、作者の心情や登場人物の心情を理解しようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 教科書やノート等きちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身につけたい力、学べきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分で考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…音読と語句調べに取り組み、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…音読して古典のリズムに慣れる。重要単語や発表者の発言など、新しい気づきはノートにメモし、現代語訳を完成させる。発問については、解答の根拠を確認する。 (3) 復習…教科書を読み返し、授業ノートと照らし合わせて文章の内容や重要単語を見直す。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば、復習しておく。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 文章を何度も音読する。授業ノートを見直し、疑問点は質問するなどして、文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
文学国語	[国語]

履修学科	普通科 文系
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校文学国語（第一学習社）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考查	現代の小説（一） 『旅する本』 『富岳百景』 近代の詩 『小諸なる古城のほとり』 『風船乗りの夢』 『永訣の朝』	・短編小説の特色を理解し、本との再会を繰り返すたびに実感される「私」の変化を読み取る。 ・本文中で話材として使われたり引用されたりしている文芸作品を調査し、報告する。 ・世界文化遺産である「富士山」の本文中での描かれ方をもとに、世界自然遺産に登録された徳之島の各スポットに焦点を当てた表現活動を行う。 SDGs 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう ・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景に込められた心情を理解する。 ・想像によって膨らんだ気球のイメージが、作者の心情とどのように結びついているかを読み取る。 ・自然の描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わう。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題する。 ・読書に親しむ。	○	○	○
2学期	中間考查	近代の小説（一） 『山月記』 『檸檬』 随想（一） 『花のいざない』 『真珠の耳飾りの少女』	・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。 ・「私」の心の動きを作品中の表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響をとらえる。 ・日本の伝統文化を論じた文章に触れ、抽象的な内容がどのように説明されているかを理解する。 ・フェルメールの絵画を紹介する文章を読んで、読み手の関心を引きつけるための工夫について考える。	○	○	○
	期末考查	近代の小説（二） 『こころ』 『葉桜と魔笛』	・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。 ・登場人物の行動や心理を読み解き、内容や展開をとらえる。	○	○	○

3 学期	課題 考査	2 学期の復習	・ 冬季課題から出題する。 ・ 読書に親しむ。	○	○	○
	学年 末考査	戦争と文学（一） 『バグダッドの靴磨き』 『わたしが一番きれいだったとき』 『死んだ男の残したものは』 『春—イラクの少女シャミラに』	・ 時系列に沿って登場人物同士の関係や心情を読み、「僕」の発言の背景にあるものを理解する。 ・ 詩の構成の意図を考え、主題を理解する。 ・ 反戦詩に託された思いを読み取る。 ・ 対比的に配置された詩の構造を理解し、新たな時代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取る。 ・ 徳之島にも特攻隊の基地があった事実から、戦争に関連する他の作品を読んだり、意見文を書いたりする。 SDGs 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に	○	○	○
	※	※ 学年末考査が終了した後の授業内容 ・ 1 年間の復習	・ 春季課題あり。 ・ 新年度の課題考査の範囲になる場合もある。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・ 文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・ 我が国の言語文化の特質について理解している。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・ 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確にとらえ、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察している。 ・ 作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈している。 【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査	・ 進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。 ・ 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・ 読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 教科書やノート等を準備し、忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身に付けたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。分からない語句は調べ、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。新しい気づきはメモをとる。 解答の根拠を確認し、自分で解答をまとめる練習をする。 (3) 復習…再度教科書を読む。授業ノート読み返してポイントを確認したり、問いをまとめ直したりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。 解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含めて解説をしっかりと読みこむ。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	新編論理国語（大修館書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末考查	論理と出会う 具体と抽象	・言い換えや抽象化を用いた文章を読み、論理の構造をとらえる。 ・具体と抽象の関係について理解し、それらを用いた筆者の主張をとらえる。 共進化について、徳之島に生息するアマミノクロウサギをと おして具体的に考える。 SDGs 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを守ろう	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間考查	対比をとらえる 主張をつかむ	・対立する具体例が示すものに注意して読み、対比による論の進め方について考える。 ・本文を論理的に読み、文章の構成をとらえることで、筆者の主張を理解する。	○	○	○
	期末考查	論理的に書く 統計資料を活用する	・根拠をふまえ、構成を考えて自分の意見を伝える方法について考える。 ・統計資料の読み方を学び、文章と資料を関連付けて読む方法を身に付ける。	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題。	○	○	○
学 3						

	学年末考査	比べて読む レポートを書く	・情報を比較・整理しながら、段落同士の論理のつながりについて考える。 ・問いを立てて情報を収集し、自らの考えを深め、自らの言葉で意見を表現できる態度を養う。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	精選論理国語（三省堂）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末考查	論理国語へのいざない 「情報社会」を生きる I	・言い換えや抽象化を用いた文章を読み、論理の構造をとらえる。 ・情報社会について具体例に注目して読み取り、筆者の主張をとらえる。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間考查	環境問題を考える 言葉を見つめる I	・環境と倫理の関係に注意して読み、資料が示す根拠について考える。 世界自然遺産に登録されている徳之島の土地開発やエネルギー消費等について資料から情報を読み取る。 SDGs 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を ・本文を論理的に読み、文章の構成をとらえることで、筆者の主張を理解する。	○	○	○
	期末考查	生命について考える 芸術について考える	・生命と科学の在り方について関連付けながら読み、段落同士の論理のつながりについて考える。 ・芸術をとおして思考し、人生を豊かにするための考え方や新たな認識の仕方を身に付ける。	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題。	○	○	○

3 学期						
	学年末 考査	科学技術と人間 「市民社会」について考 える	・科学と人間の関わりについて、筆者の主張を読み取り、 自分に引き寄せて考える。 ・論理的な文章や資料を読み、自らの考えを深め、自らの 言葉で意見を表現できる態度を養う。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した 後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかり読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代文B	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	文系 3単位 理系 2単位
教科書	精選現代文B（東京書籍）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版） 読み解くための現代文単語〔評論・小説〕（文英堂）

科目目標
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。 (1) 様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 (2) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 (3) 文学的な文章について、人物・情景・心情などを的確にとらえ、表現を味わう。 (4) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てる。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	⑤
1学期	考查 課題	2年次の復習	・春季課題より出題する。	○			○	○
	期末考查	評論 1 小説 1	・表現や構造に着目し、筆者の主張を的確に理解する。 ・筆者の提示した話題について、自分の考えをまとめる。 ・文章に描かれた場面や登場人物の言動、心理を表現に即して読み取る。 ・段落構成について理解し、鑑賞の方法を学ぶ。	○	○	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題より出題する。	○			○	○
2学期	中間考查	評論 2	・環境問題を扱った評論を読み、文章の展開を的確に理解し、筆者の主張を読み取る。 ・筆者の主張をもとにして、徳之島における環境問題の改善について考える。【SDGs 11 住み続けられるまちづくりを, 14・15 海（陸）の豊かさを守ろう】	○		○	○	○
	期末考查	評論 3	・具体と抽象に注意して読み、筆者の主張を理解する。 ・筆者の提示した話題について、考えたことを話し合う。	○	○		○	○
	課題考查	なし						
3学期	卒業考查	評論 4	・近代社会の在り方や人間存在について論じた文章を読み、表現に即して筆者の主張を的確につかむ。 ・語句の意味、用法を的確に理解し、文章の表現上の特色をとらえる。	○			○	○

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）				
①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
- 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言ができるか。 - 課題等を決められた期日に提出しているか。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題	文体や修辞などの表現上の特色を、自分の話し方に役立てている。 【評価の対象】 課題、授業中の活動、考査	文体や修辞などの表現上の特色を、自分の書き方に役立てている。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	- 文章の構成、展開、要旨などを的確にとらえることができるか。 - 文章に描かれた人物、情景、心情の描写などを的確にとらえることができるか。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	- 高校生として必要な国語の知識を理解しているか。 - 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすることができるか。 【評価の対象】 課題、小テスト、考査

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績の付け方）
1 授業を受けるときの約束事 - 教科書やノート等をきちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） - 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 - 授業で身につけたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 - 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 - 授業中に指示された予習や課題については、指定された期日までに必ず取り組んだ上で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分で考える</u>ことが大切です。 - 予習…読めない漢字や言葉の意味は必ず調べる。 - 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 - 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。また、教科書の本文を音読し、内容理解を深める。 - 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。 - 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。テスト範囲の問題集等を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。漢字や現代文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、考査の点数と平常点で成績をつける。 ※平常点は、提出物の提出状況や小テストの結果、授業中に用いたワークシートの内容、授業に取り組む姿勢をみて判断します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典B	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	精選古典B 改訂版(大修館書店)
副教材	重要古文単語315(桐原書店) 新明説総合古典文法(尚文出版) 精選漢文(尚文出版)

科目目標
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。 (1) 古典としての古文と漢文を読む能力を養う。 (2) 古典を読み味わうことを通して、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を身に付ける。

学期	考査	単元名(考査範囲)	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	⑤
1学期	考査 課題	2年次の復習	・春季課題より出題する。	○			○	○
	定期考査	古文 説話 漢文 逸話と寓話 古文 随筆 漢文 史伝	・登場人物の行動に注意して読み、場面の展開を考える。 ・論理の展開を正確に把握し、表現や構成の巧みさを鑑賞できる能力を養う。 ・古典文法に注意して正確に口語訳し、作品に描かれる人物の人物像や心情を理解する。 ・長い文章を読み漢文を理解し鑑賞する能力を増進する。 ・登場人物の心情を理解する。	○		○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題より出題する。	○			○	○
2学期	中間考査	古文 物語(一) 漢文 漢詩	・人間の生き方、思想や感情を理解し、人生についての認識を深める。 ・歴代の古代詩を読み、その特色・形式・表現を理解する。	○	○		○	○
	期末考査	古文 日記 漢文 文章	・地の文、会話文、和歌の繋がりを把握する。 ・登場人物の関係と場面の移り変わりを把握する。 ・名文として知られる作品を深く読み味わう。	○			○	○
	課題考査	なし						
3学期	卒業考査	古文 物語(二) 漢文 思想	・的確な現代語訳によって文章の内容を理解する。 ・敬語に注意して、人間関係を把握する力を高める。 ・道家、儒家、墨家、法家がそれぞれどのような考えをもっていたかを理解する。	○			○	○

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）				
①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
- 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言ができるか。 - 課題等を決められた期日に提出しているか。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題	目的や場に応じ、効果的に話したり的確に聞き取ったりすることができるか。 【評価の対象】 課題、授業中の活動、考査	文章を読んで考えたことを、自分の言葉で適切に表現することができるか。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	文章の内容を的確に読み取り、主題を把握できるか。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	- 高校生として必要な国語の知識を理解しているか。 - 古典文法や漢文の句法の知識を理解しているか。 【評価の対象】 課題、小テスト、考査

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績の付け方）
1 授業を受けるときの約束事 - 教科書やノート等きちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） - 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 - 授業で身につけたい力、学べきことを明確にしたうえで授業を受ける。 - 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 - 授業中に指示された予習や課題については、指定された期日までに必ず取り組んだ上で授業に臨むこと。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分で考える</u>ことが大切です。 - 予習…古典の勉強は予習が一番大切。本文書写（2～3行間隔）に必ず取り組むこと。 - 授業…音読はしっかり声を出す。重要単語や板書事項をノートに書く。先生や発表者の発言をよく聞き、ノートに現代語訳を完成させる。 - 復習…授業ノートを読み返し、文章の内容や重要単語を見直す。 - 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば、チェックしておく。 - 考査…文章を何度も音読する。音読して現代語訳がイメージできなければ理解していない証拠なので、授業ノートを見直す。先生や友達に質問するなどして、文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかり読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、考査の点数と平常点で成績をつける。 ※平常点は、提出物の提出状況や小テストの結果、授業中に用いたワークシートの内容、授業に取り組む姿勢をみて判断します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代文B	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	新編現代文B（東京書籍）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。 (1) 様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 (2) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てる。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	⑤
1学期	課題考査	2年次の復習	・春季課題より出題する。	○			○	○
	期末考査	評論1 小説1	・語句の意味に注意して文章を的確に読み味わう。 ・筆者の主張を読み取る。 ・筆者の提示した話題について、自分の身近な問題として考える。 ・比喩表現の効果について理解する。 ・登場人物の心情を読み取り、人物像を理解する。	○	○		○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題より出題する。	○			○	○
2学期	中間考査	評論2	・筆者のものの見方、考え方に触れ、視野を広げる。 ・筆者の提示した話題について、自分の日常にあてはめて考える。	○		○	○	○
	期末考査	小説2	・文章表現から場面や人物像を的確に読み取る。 ・登場人物の心情の変化を読み取る。 ・心情描写や表現に注意し、自らの言語生活に活かせるようにする。	○	○		○	○
	課題考査	なし						
3学期	卒業考査	詩歌	・詩的な表現についての理解を深め、作者の心情を味わう。 ・多様な表現の在り方について学び、自己の感性と表現力を高める。	○	○	○	○	○

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）				
①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
- 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言ができるか。 - 課題等を決められた期日に提出しているか。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題	文体や修辞などの表現上の特色を、自分の話し方に役立てている。 【評価の対象】 課題、授業中の活動、考査	文体や修辞などの表現上の特色を、自分の書き方に役立てている。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	- 文章の構成、展開、要旨などを的確にとらえることができるか。 - 文章に描かれた人物、情景、心情の描写などを的確にとらえることができるか。 【評価の対象】 課題、ワークシート、考査	- 高校生として必要な国語の知識を理解しているか。 - 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすることができるか。 【評価の対象】 課題、小テスト、考査

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績の付け方）
1 授業を受けるときの約束事 - 教科書やノート等をきちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） - 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 - 授業で身につけたい力、学べきことを明確にしたうえで授業を受ける。 - 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 - 授業中に指示された予習や課題については、指定された期日までに必ず取り組んだ上で授業に臨むこと。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分で考える</u>ことが大切です。 - 予習…読めない漢字や言葉の意味は必ず調べる。 - 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 - 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。また、教科書の本文を音読し、内容理解を深める。 - 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。 - 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。テスト範囲の問題集等を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、考査の点数と平常点で成績をつける。 ※平常点は、提出物の提出状況や小テストの結果、授業中に用いたワークシートの内容、授業に取り組む姿勢をみて判断します。